令和７年度　司書・司書補講習　講師プロフィール

赤山（あかやま）　みほ	短大卒業後、図書館勤務５年を経て筑波大学に３年次編入、司書資格を取得。筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程単位取得退学。修士（図書館情報学）。専門は、図書館の潜在利用者、アウトソーシングおよび複合施設内の図書館を対象としている。
石井（いしい）　大輔（だいすけ）	聖徳大学文学部文学科准教授。千葉県船橋市生まれ。筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程単位取得退学。島根県立大学准教授を経て、現職。島根での９年間は、図書館情報学の教育研究とともに、地方の図書館活動のお手伝いをしていました。
伊藤（いとう）　民雄（たみお）	実践女子大学図書館勤務。現場の経験から「情報サービス」をアドバイスできたらと思います。2025年５月末に、図書館業務に役立つインターネット情報満載の『インターネットで文献探索 2025年版』を刊行しました。
今野（いまの）　創祐（そうすけ）	東京学芸大学特任講師。大阪府出身。京都大学で11年間ほど図書系職員を行っていました。専門は図書館情報学で、もともとは図書館史や資料組織化（目録・分類）の研究者でしたが、図書館に関連することはなんでも興味があり、現在は研究対象を広げております。
岡田（おかだ）智佳子（ちかこ）	国立大学図書館、国立情報学研究所勤務を経て、図書館アドバイザーとして独立。現在は、大学非常勤講師やNPOの理事として、図書館で働く人向けの教育研修事業を行っています。
片山（かたやま）　ふみ	聖徳大学文学部文学科准教授。図書館情報学（博士）。北海道の大自然の中、読書家の父にたくさんの児童書を与えられて育ちました。出版者、図書館員など、絵本や児童書を生みだし、与える大人たちの意識に興味をもち研究を行っています。
木戸（きど）　裕（ゆたか）	国立国会図書館に33年間勤務しました。在職中は、主として国会議員の立法活動を補佐する仕事に従事しました。講習では、国会図書館時代のいろいろな経験を交えながら、利用者の立場に立ったサービスという視点でお話ししたいと思います。聖徳大学兼任講師。元国立国会図書館専門調査員。
坂田（さかた）　和光（かずこう）	国立国会図書館に 2019 年まで在籍していました。国会サービスを所管する部署に長くいて、国会議員からの依頼に答え、報告書をまとめる仕事をしてきました。また、国会サービス以外にも、管理職として、資料のデジタル化、ダイバーシティなど、図書館サービスの変革期を実体験してきました。2020年８月から教員に転じ、図書館に関する科目の中の図書館制度・経営論、図書館概論、情報サービス演習を中心に学生に教えています。現・信州豊南短期大学言語コミュニケーション学科教授、日本女子大学家政学部家政経済学科非常勤講師。
坂本（さかもと）　俊（しゅん）	聖徳大学文学部文学科講師。筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程単位取得退学。京都女子大学司書課程助教、安田女子大学文学部日本文学科助教を経て現職。
竹之内（たけのうち）　禎（ただし）	東海大学准教授。東京大学大学院情報学環助手、特任講師等を経て現職。絵本セラピスト。主な編著書に、『生きる意味の情報学 共創・共感・共苦のメディア』（東海大学出版部）、『情報サービス論－第２版』（学文社）など。

田中（たなか）　伸樹（のぶき）	相愛大学人文学部講師。桃山学院大学大学院博士後期課程修了。関西圏の複数の大学での司書課程非常勤講師を経て、現職でも司書・司書教諭課程の科目を担当。主な関心領域は、図書館の諸活動にかかわる法制度。
田邊（たなべ）　稔（みのる）	ＮＴＴ→ＮＴＴデータ→慶應義塾大学メディアセンター（図書館）→国立情報学研究所（ＮＩＩ）と渡り歩き、2013 年に独立・起業（株式会社エムエムツインズ創業）。自称「パイレーツ・オブ・ライブラリアン」。学術情報や SNS の海を縦横無尽に駆け巡り、エビデンスに基づいた確かな知を届けたい。元筑波大学大学院図書館情報メディア研究科非常勤講師。
土屋（つちや）　深優（みゆ）	秋草学園短期大学文化表現学科助教。2024 年に筑波大学大学院人間総合科学研究群情報学学位プログラムにて博士（情報学）を取得。2023 年より現職。学生時代より継続して、イギリスの多様な公共図書館運営とサービスについて研究をしています。
常世田（とこよだ）　良（りょう）	元立命館大学教授。筑波大学大学院博士前期課程修了。浦安市立図書館長、文科省、文化庁、総務省、経産省、厚労省、国会図書館、千葉県、茨城県、長崎県、高知県、堺市、松戸市、多摩市、舞鶴市、千代田区、荒川区等審議会委員など。著書『浦安図書館にできること』など。
西巻（にしまき）　悦子（えつこ）	栃木県生まれ。東京都で国語科教員を勤め、早期退職後、筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程単位取得退学。早稲田大学・聖徳大学・昭和女子大学・昭和音楽大学・和洋女子大学等で兼任講師を務めた。デジタルアーキビスト。日本語教師。
西村（にしむら）　美東士（みとし）	若者文化研究所代表。東京都社会教育主事や国立社会教育研修所の時代に、図書館司書研修を企画・運営し、魅力ある図書館人に出会った。私のライフワークである青少年教育については、彼らをヤングアダルトとして尊重する図書館の支援理念から多くを学んだ。
野口（のぐち）　康人（やすひと）	筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程修了。博士（情報学）。聖徳大学短期大学部総合文化学科准教授。日本図書館情報学会研究委員会委員。日本図書館協会図書館調査事業委員会委員。情報科学技術協会 ISO /TC46 国内審議委員会委員。
野中（のなか）　博史（ひろふみ）	新聞社勤務、宮崎公立大学教授、聖徳大学教授等を経て現在、聖徳大学名誉教授。専門はメディア論。著書・論文は、『デス・コントロール：生命操作社会からの警告』（三一書房）、『リスク情報における蓋然性と報道萎縮の考察：統治者と報道機関の共同幻想』、『高木兼寛の人間像をめぐる一考察－幸徳秋水・福沢諭吉・森鴎外とのシンパシーの共有－』等。俳句誌にエッセイ、俳句を連載中。
野村（のむら）　至（たもつ）	経済産業省　商務・サービスグループ商取引監督課　課長補佐（総括）。これまで、次世代電子商取引推進協議会（ECOM）、総務省、内閣官房内閣サイバーセキュリティセンター等において、情報通信関連政策、情報サービス、プライバシー・個人情報保護、情報セキュリティ等を対象として政策推進・調査業務を行う。
藤倉（ふじくら）　恵一（けいいち）	文教大学付属図書館副主幹司書。博士（情報学）。日本図書館協会分類委員会委員ほか。主な著書に、『日本十進分類法の成立と展開　日本の「標準」への道程　1928-1949』（樹村房）、『図書館のための個人情報保護ガイドブック』（日本図書館協会）など。

藤森（ふじもり）　聡美（さとみ）	北欧の地域密着型図書館に着目し、「発達・学習」について研究しています。郷土史調査では、信州の旧家の江戸時代の古文書群の目録化作業の痕跡を見つけ、感慨深いものがありました。『図書館情報学用語辞典』（丸善出版）第３版～第５版の執筆者のひとりです。
松野（まつの）　南紗恵（みさえ）	明治大学大学院文学研究科博士前期課程修了（人間学修士）。メールやチャット、ビデオ会議システムを利用した「ヴァーチャルレファレンスサービス」について研究しながら、東京学芸大学と駿河台大学で図書館サービスや児童サービスについての授業を担当しています。
森（もり）　茜（あかね）	文部省で生涯学習教育・大学学術行政に従事。内閣府出向後、複数の国立大学で大学図書館の運営に従事するとともに、国立大学事務局長など大学運営に従事。国家公務員退職後、私立大学運営に従事、その後公益法人において活動。その間、図書館にかかわり続け、（公財）日本図書館協会理事長を経て、現在、同協会顧問。（公社）読書推進運動協議会副会長、（公財）矯正協会理事、（般社）グローバルサウスと絵本とサイエンスの会理事長、（公財）国連大学協力会前常務理事・事務局長。